

# WEEKLY

# 一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

## Rotary



### The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日  
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858



ロータリーは機会の扉を開く

## ロータリーは機会の扉を開く

URL:<http://rc138.org>

E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)

## 2021年4月22日 第3463回例会

### ハイブリッド例会

イニシエーションスピーチ

近藤尚文君

テーマ「自己紹介」

黒崎恵美君

テーマ「自己紹介」

第3462回例会の記録  
2021年4月15日(木)

### 会長挨拶

光寄賢一

今日は菱田さつきさんをお招きして卓話をお願いしています。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、愛知県もまん延防止等重点措置の適用の可能性が高まっています。次回22日はハイブリッド例会を予定していますし、4月29日、5月6日は休会となっています。これ以降の例会も感染防止に十分留意しつつ粛々と進めて行く予定です。いつも申し上げていますが、会員各自におかれましては従来にも増して例会時の感染がないようにご注意ください。

### お城、あれこれ (25)

「どのお城が好きですか？その4」

世界遺産の姫路城は立派な城ですが、大好きとまでは言えません。本城部分の複雑な縄張りが称揚されますが、天下人となった秀吉の城であったことを意識して、秀吉時代の古い縄張りをうまく生かしたのだらうと思います。池田輝政は家康の娘婿で、子供たちに与えられた所領を合わせると百万石に達しようかという大名になりましたから、天守もそれにふさわしい規模を持ち、厳重な防御と美しさを誇ります。しかし、そこに至る城内の道の防御の工夫がちまちまと言えるほど細かく、大軍勢の敵を相手にした実戦の用に供し得るのかとまで思わせます。関ヶ原合戦後の新時代の城郭として、巨大な外曲輪はさすがですが、今は更地になっている城主の居所としての備前丸が少し狭く、平時の政務には難渋しそうです。池田家が鳥取と岡山に分割されて移転させられた後、本田平八郎忠勝の息子忠正が入城。その息子忠刻が千姫の婿となり秀忠から貰った千姫の化粧料で西の丸を整備し、千姫はこの郭に住み播磨その息子

会 長 光 寄 賢 一 副 幹 事 鈴 木 洋 志  
幹 事 柄 倉 勲 副 会 長 松 田 暁 昌  
会 長 エ レクト 梯 國 彦 会 報 委 員 長 加 藤 寛 之

忠刻が千姫の婿となり秀忠から貰った千姫の化粧料で西の丸を整備し、千姫はこの郭に住み播磨の姫君と呼ばれました。西の丸を囲む多門櫓の連なりは千姫お付きの女中の長局として使われたと伝わりますが、強い防禦力を持ち、江戸城西の丸と同じく本丸とは別の独立した城のようです。ここは池田氏時代にもある程度整備されていたのですが、よく分かっていません。その後の城主は西の丸の前の三之丸に建てた広い御殿に住みます。十五万石程度の石高で百万石の格を持つ姫路城の面倒を見るのは修理だけでも費用がかかり大変だったでしょう。なお、昭和4年に国宝保存法が制定され、翌年には名古屋城が城郭建築として最初に国宝指定を受けました。今では文化財保護法で指定された国宝に対して旧国宝と呼ばれますが、姫路城は名古屋城に遅れて指定されました。戦災前の名古屋城がいかに高い評価を得ていたかの証でもあります。

### ロータリーの友4月号

鴨下昌充

4月のホルガー・クナークRI会長メッセージは、環境問題についてです。横組3頁に環境問題は、私たちみんなの住まいである地球を守るため、今後を生きる子供たちのため、ロータリーが手掛けるあらゆるプログラム、プロジェクト、イベントで取り組んでいく問題であり、ロータリーの奉仕活動を拡大していくため機会の扉をどうすれば開くことができるかを考えていきたいと思います。7頁～13頁には、母子の健康についての特集が紹介されています。宇部RC産婦人科医 金子氏の10代への性教育の取組、箕面RCマタニティマーク普及の取組の紹介、妊婦疑似体験等が取り上げられています。16頁～19頁は、各地区ガバナーの活動の様子が紹介されています。当2760地区岡部ガバナーは16頁上段に、ローターアクトとの共同取組を行って成果をあげたと紹介されています。

縦組4頁～8頁は、カーリング元日本代表の本橋麻里氏の講演内容が紹介されています。メジャースポーツでなかったカーリング活動の苦勞、地域の皆さんの支援、新しいチーム立ち上げへの挑戦等が書かれています。14頁上段に江南RC木本寛氏の私の一冊「不屈の春雷・十河信二のその時代」の感想が紹介されています。縦組28頁のロータリーネットワークの紹介記事にも、江南RCのコロナ過で飲食業への支援、そのことによりLINEでの交流が会員同士や家族間も広がって一体感が向上したことが載っています。

### 次回の予定

4/29 休会 昭和の日

5/6 休会

5/13 ローターアクトクラブ活動報告

### 委員会報告

ニコボックス

林 功浩

☆ 浅井孝介君

本日の卓話講師として、菱田さつき様をお迎えして、卓話をしていただける喜びで、本日は宜しくお願ひ致します。

☆ 大鹿晃裕君

先週のハピネスカードでお伝えしたNHKの生放送は急遽の国会中継のために延期になり楽しみにして見えた方には申し訳ございませんでした。再度の放送日が決まりましたら改めてお知らせ致します。

ところで先日にも榊TOKIOの国分太一副社長がみえて、東海テレビの番組「タイチサン！」での撮影があり、想像以上にロケの大変さと華奢でしたが男前な国分さんを目の前で感じました。4月25日(日)正午からの番組内で放映されますので是非ご覧になって下さい。宜しくお願ひします。

☆ 鎌田芳彰君

IRG会紅組でラッキーなことに優勝させて頂きました。出だしアウト2番で左に引っ掛けてがけ下へボールが落ちたのでボールを追いかけていったところ、すってんころりと転び足をひどく打ちました。それから痛さとの戦いでしたが、光寄会長と松原さんに励まされ何とかホールアウトできました。「災い転じて福となす」です。有り難うございました。

☆ 浅井孝介君 野杵晃充君

4月9日第3回IRG会ゴルフコンペに多数ご参加を頂き、誠にありがとうございました。強風の中優勝された鎌田さん、山田さんおめでとうございます。次回は6月4日を予定しておりますので、奮ってご参加の程宜しくお願ひ致します。

☆ 光寄賢一君 柄倉 勲君

本日は出席ニコボックス委員会担当の例会です。講師に菱田さつき様をお招きしました。菱田様には当初、1月14日の例会に卓話を頂く予定でしたが、コロナにより例会が取りやめになったため、本日に変更をしていただきました。菱田様におかれましては日程調整をしていただきまして誠にありがとうございました。後ほど卓話をお願い致します。

出席報告

現在の会員数	112名
本日の出席数	63名
前々回の出席率	100%

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*

卓話  
菱田さつき様  
(ナレーター)

テーマ「コミュニケーションを深める話し方」



昨今のコロナ禍において、これまでのように他者とコミュニケーションを取ることが難しくなり、またその方法も変化してきています。だからこそコミュニケーションの重要性が高まっています。

その中でも、一対一での会話や雑談のスキルが欠かせません。ちょっとしたコツで会話が進み、相手への理解が深まっていきます。話し方や社交性、コミュニケーションスキルはもともと持って生まれた資質ではなく、トレーニングで身に付けることができる技術です。そして、ほとんどの方がその方法をご存じないだけで、

自分は苦手だと思い込んでしまっています。現代社会において、ビジネスでもプライベートでも、他者と一切コミュニケーションを取らずに生きていくことは不可能ですから、特に「話すこと」は身につけておきたい大切なスキルです。

また数年前から、ダイバーシティや多様性などに配慮した会社経営も増えてきている中で、従来のような「これが常識だ」「普通はこうだ」といった考え方や日本人特有の「空気を読んで忖度する」「阿吽の呼吸」などといったいわゆる『察する』という方法がどんどん通用しなくなってきました。相手と自分の価値観が異なることを認め合い、その上でお互いの考え方や思いを伝え合うことがコミュニケーションの基本です。

そこで大切なのは、伝えるべきことはきちんと言葉にして伝える必要があるということです。そして、どんな内容の話をするのかという「言葉」だけでなく、声のトーンやスピードなどの「話し方」、表情や姿勢などの「見た目」も、過不足なく思いを伝えるためには非常に重要です。

どんなに素晴らしい思いを持っていても、相手に伝わる形にして伝え、それが伝わらなければ最初から何もなかったこととして過ぎ去ってしまいます。

コミュニケーションは双方です。まずは相手の思いを聞き、そして自分の思いをきちんと伝えられる話し方についてお伝えさせていただきます。

春の親睦家族会 3月25日(木)

例会会場にて牛田 猛さんから思い出話!!

「名古屋城は1600年代に造られましたが、昭和20年4月に先の戦争で焼失しました。元のお城に登った方は私の他はいないと思いますが、私が小学校3年生の時に登りました。

城からの眺めは、北と東は当時陸軍師団が駐屯していたために、板が張ってあり、見る事ができませんでした。南と西からの風景を見ました」

